椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第27号

令和2年6月10日発行
長野県小県郡青木村村松
発行人　本田昌彦
印　刷　杏花印刷

美しいラバウル市街地とシンプソン湾
「南太平洋戦没者の碑」墓苑からの展望
（写真提供：フォト・オリジナル）

ニューブリテン島・ラバウル

ラバウルはビスマルク海に面した州都で、その美しさはマダンと並んで、パプアで最も美しい街と言われ、終戦まで旧陸・海軍基地があった事でも知られている。

シンプソン湾に面した市街地を見下ろす高台には、「南太平洋戦没者の碑」の墓苑がある。南太平洋地域で戦没した20万人を慰霊するため、昭和55年に日本政府が建立した。

感染症終息に向け催事自粛へ

長野県ニューギニア会　会長　本田 昌彦

新型コロナ禍が収束しない中、会員の皆様方お変わりなくお過ごしでしょうか。

今年初め中国で発生した新型コロナウイルスは瞬く間に全世界に蔓延し、猛威を振るいグローバル時代の感染症の脅威を強く印象づけられました。

わが国でも緊急事態宣言が出され、厳しい外出規制強化により感染拡大はほぼ収束して、宣言は全面解除されたものの、コロナウイルスとの戦いは、再流行に備えるなど、長期戦の様相を呈しています。このような状況を踏まえ、皆様の感染リスク防止のため本年度の慰霊大祭は下記のお知らせの通り止む無く自粛させて戴くこととといたします。

また、8月下旬に予定しております現地慰霊巡拝の旅はわが国とPNG両国とも入国規制管理措置が取られており、関係方面と調整中ですが、実施はかなり厳しい状況にあります。

今年は戦後75年の節目の年にあたります。戦後とは、昭和20年8月15日、今は亡き昭和天皇の玉音放送を聞いた後からです。現在は終戦記念日として「全国戦没者追悼式」が政府主催で開催されています。

310万人もの若き尊い命を奪った太平洋戦争。戦争とはいかに悲惨で残酷で、非人間的で空しいことであり、私たちはどう追悼すべきか、それは「日本がいつまでも戦争のない平和な国であること」を亡くなった方々に向けて誓うことだと考えます。

無念の死を遂げたご英霊に向けても「皆様方の御心を生かします」と誓い、その具現に向けて更に努力することだと思います。

ここに、一日も早い感染拡大の終息と皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

第52回ニューギニア方面戦没者 慰霊大祭の斎行について

来る7月26日（日）に開催予定の、「第52回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭」は、会員皆様の参列を御遠慮戴き、祭祀のみ執り行うという苦渋の決断を致しました。

新型コロナウィルス感染症拡大に伴う「緊急事態宣言」が政府より発令されて以来、関係方面より情報収集しながら準備を進めて参りました。しかし、感染終息へ向けて長期戦の様相となる状況から、皆様の健康を最優先に考えこのような結論に至りました。

南十字星の下に眠るご英霊の御霊に、護國神社の社頭で年一度お会いできる機会を、待ち望んでいた遺族の皆様には、誠に申し訳なく残念でなりませんが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

尚、神事につきましては、本殿にて奥谷宮司斎主のもと、役員のみで謹んで斎行いたします。

令和2年6月10日
長野県ニューギニア会

スケッチ画（ウエワク海岸）　稲垣 一良

『ふるさと富士山』望郷〇〇富士

富士山は日本一の霊山であり、象徴でもある。ところで「〇〇富士」と名の付く山が日本中、いや世界中で四百近くもあった。

これは中日新聞社が、今年の新年号特集記事の中で報道したもので、パプア・ニューギニアの「ハンサ富士」や「ラバウル富士」が紹介され、本会は現地の写真などを提供した。

富士は昔から、あやかりたい存在で、いわゆるふるさと富士は各地にあり「〇〇富士」と通称で呼ばれているものでは、薩摩富士（鹿児島）蝦夷富士（北海道）などが有名。海外でも60ほどあるとされ、先の大戦で戦場となった太平洋地域にも多く、将兵が望郷の念で、故国を思うシンボルとして命名した山が多い。

山容は円錐状成層火山で、美しい裾野を引く、ニューギニアでは昭和17年から終戦まで15万人もの将兵が厳しい戦場で、これらの山々に望郷の思いを重ねた。以下ＰＮＧの富士を紹介する。

「望郷富士」を特集した中日新聞新年号

ニューギニア「ハンサ富士」マナム火山大噴火

パプアニューギニアのマダン州の沖合にあるマナム島の火山が、昨年から3回に渡り爆発的な噴火を繰り返している。

先の大戦時、この島に近いハンサ地区に、陸軍部隊が駐屯して、飛行場や道路などの建設、前線への兵站（補給）基地としていた。

この火山が富士山に良く似た形をしていたことから将兵らが「ハンサ富士」と命名、望郷の思いを託していた。

基地には松本歩兵50連隊で編成された、県内出身５００人の将兵（猛４６４２部隊）が約一年間に渡り滞在していたことから遺族会員もなじみが深い地名となっている。

このマナム火山は標高１８００メートルで、島民が住んでいる。昨年6月の大噴火では、火山灰を含む黒い噴煙が1万5千メートルの上空に達し、多くの住民が島を脱出した。

今年になって火山活動は、小康状態となっていると伝えられている。

「ラバウル富士」今も噴煙上げる

ニューブリテン島の北端に位置するラバウルは、陸海軍最大の基地があったことで知られ、海軍・東飛行場近くにある活火山（ダブルブル山）を将兵らが「ラバウル富士」または「花吹山」と呼んでいた。

平成6年9月、この火山の大噴火で、街の大半が火山灰に埋もれ、事実上の州都・ラバウルは南西約20キロのココボに移転を余儀なくされた。

海軍司令部地下壕や大発洞窟など戦跡も残っており、今も日本からの慰霊団の姿が見られる。

信州から望む秀麗富士 富士見町など5か所

富士見町から望む「初冠雪の富士」

世界の望郷富士として、ニューギニアの「ふるさと富士」を紹介した。ところで、わが故郷・信州から望む秀麗富士のビューポイントについて、国交省が10年ほど前に「中部地方から見る富士百景」を選んでいる。

長野県からは5つの地点が選ばれ、富士見町の境、下諏訪町の湖浜、諏訪市の霧ケ峰高原、遠くは上田市の太郎山、小諸市の富士見城跡など。それぞれ遠景になるが、信州らしい富士の眺めである。

古くは葛飾北斎の富嶽三十六景には「信州諏訪湖」という版画がある。下諏訪から東を見たところで、高島城の浮かぶ諏訪湖の向こうに八ヶ岳と富士山を望む。また、渓斉栄泉の木曽街道にも「諏訪湖水眺望」があり、凍結した諏訪湖の向こうに富士山が見えている。

ニューギニアで新国家誕生か
「ブーゲンビル島」独立の可能性

南太平洋に新たな国家が誕生するかもしれない、として世界の注目が集まっている。

パプアニューギニアの東部、ブーゲンビル自治州で、独立の是非を問う住民投票が昨年末に行われ、開票の結果が明らかになった。この島の人口は約30万人。

今回の選挙では18万100票が投じられた（投票率85％）。この内独立支持票は、投票の98％を得票して圧倒的多数を占めた。ただ、正式に独立するためには、ニューギニア国会の承認を得る必要がある。

日本政府は、選挙の円滑な執行のため、約一億円の無償資金を出し、外務省が人材を派遣した。自治州を構成するこの島では、銅鉱山採掘に絡む住民の抗議活動が独立運動に発展して、長年に渡り内戦状態が続いていた。

なお先の大戦中、ブーゲンビル島では、米軍と激しい戦闘が繰り返されていた昭和18年4月。ラバウル飛行場を前線視察のため発進した、山本五十六連合艦隊司令長官の搭乗機が、同島上空で米軍機に撃墜され、長官は戦死、（海軍甲事件）が発生したことでも知られている。

ご遺骨引渡し式中止
コロナ感染拡大のため

世界的な新型コロナウィルス感染症拡大のため、2月初旬に予定されていた東部ニューギニア方面に対する、遺骨収集団派遣事業は取りやめとなり、止む無く27日の千鳥ケ淵墓苑での帰還ご遺骨引き渡し式も中止された。

厚生労働省の主導で、実施しているニューギニア地域における戦没者遺骨収集調査は、昨年度3回に渡り行われた。

東部ニューギニア東セピック州（山南地区）のマブリック、ヤンゴール。モロベ州のサラモア、ブロロ、ワウ地城で、さらに、ヘリコプターを使って、サラワケット山系の高地集落を訪れ、ラエからマダンへの行軍で命を落とした、2000余名の将兵が眠る埋葬場所を確認した。

また、ニューブリテン島では、西ブリテン州の海岸線をガルからワレモ（ツルブ）間の村落を移動、残存遺骨に関する情報を集め、住民の証言に基づき埋葬地の試掘を行い、推定15柱を収容した。

遺骨収集取り違え問題
現地で焼骨すべきでない

厚労省はシベリア、フィリピンなどからの戦没者遺骨取り違い問題で、昨年末、600人分のDNA鑑定の結果を発表、約7割について「日本人の可能性が低い」と、驚くべき結論を出した。

東京・千鳥ケ淵戦没者墓苑には、これまでに37万体のご遺骨が安置されている。ニューギニア方面からはこれまでに51，300柱が納骨されている。

専門家会議は、再発防止策として、詳細なDNA鑑定の実施を提案しているが「鑑定前に現地で焼骨すべきでない」と提言している。

在PNG日本国新大使
中原邦之氏就任

外務省は、新しいパプアニューギニア国の特命全権大使に、中原邦之氏を発令した。

中原大使はシンガポール、中国日本大使館一等書記官、在中国・青島総領事などを歴任。日パ協会に対し「先の大戦において、10万人もの戦没者の遺骨が未収容となっており、現地政府と協力して粘り強い収容活動を継続したい」と、挨拶を寄せた。

特別寄稿

鳥居3基の建立完成
御鎮座80周年記念事業

長野県護國神社宮司 奥谷一文

長野県護國神社のことにつきましては、平素よりご高配を賜り誠に有難く感謝に堪えません。

昭和49年7月28日「嗚呼戦友」慰霊碑の除幕式が、大勢のご遺族様方の参列のもと盛大に斎行されて以来、毎年ニューギニア会主催の戦没者慰霊大祭が、挙行されております事は誠に慶賀に存じます。

長野県護國神社は、昭和13年県民総意により、現在地に建立されてから82年の歳月が経過致しました。その間、県遺族会・崇敬者の心ある御奉賛を賜り、神社としての形態を整えることが出来ました。

そんな中、先の台風により昭和17年に建立の第二鳥居と脇鳥居が相次いで倒壊いたしました。また、神社の正面の第一鳥居も木材の腐食が激しく、危険な状態であったことから、当神社御鎮座80周年記念事業として、建設委員会が結成され鳥居3基の再建事業を進めて参りました。

お陰様で、ニューギニア会を始め多くの方々のご支援を頂き、令和元年・天皇陛下御即位の大変おめでたい年に全て完成できましたことは、偏に皆様のお力添えの賜物と衷心より感謝申し上げます。

ニューギニア会の皆様が親御様の精神を引き継ぎ、立派に慰霊顕彰に努められておられることに敬意を表すと共に、ご遺族様のご健康とご活躍を祈念し、御礼の挨拶といたします。

全面修復が完成した大鳥居

第52回（令和2年度）通常総会の報告

第52回総会は、2月11日松本市浅間温泉・みやま荘で開催された。総会は午後2時に開会、まず南十字星の下に眠るご英霊と、昨年度亡くなられた会員物故者に黙祷を捧げた。

本田昌彦会長は挨拶のなかで「昨年度の事業は、会員の皆さまのご協力により、予定どおり実施できた。8月の東部ニューギニア方面の慰霊巡拝は、栃木県護國神社との共催により当会から8名が参加。ご英霊に対して孫、ひ孫にあたる若い世代から2名の方が同行して、慰霊の灯火を次世代に繋げていただき、現地の若者とも交流を深められたことは会として特筆すべきことであった」と、戦没者慰霊巡拝・第40回の節目の旅を総括した。

また、創立以来52年目となる会の今後について「戦後75年が経過して、会員の平均年齢も上がり、ここ1・2年でも20名近くの会員がお亡くなりになっており、今後どのようにして会を継続していくべきか、検討を進め、可能な限り長続きできるよう、無理をせずに会員の協力を得ながら活動を続けていきたい」と述べた。

挨拶に立つ本田会長

続いて議長に安川幹事長が就き、第1号議案、令和元年度事業報告から、第4号議案、令和2年度予算案までが上程され、審議の結果いづれも原案通り可決承認された。

○可決した主な議案内容は次のとおり

一、平成31年・令和元年度収支決算報告

収入総額 3,160,165円
支出総額 1,481,136円
差　額 1,679,029円
（翌年度繰越金）

二、令和2年度主な事業計画

・第52回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭開催
7月26日（日）長野県護國神社
・第41回東部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
・第4回西部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
・会報「椰子の樹」年2回発行1・6月
・当会ホームページの維持管理
・第53回長野県ニューギニア会通常総会の開催
令和3年2月11日

三、令和2年度予算

収入総額 2,969,029円
支出総額 1,736,000円
主な支出（単位千円）
慰霊大祭費　462
慰霊巡拝費　300
総会費　255
広報費　234　他
次年度繰越金
1,233,029円

東部ニューギニア・西部ニューギニア方面慰霊巡拝計画は調整中

本年度の現地慰霊巡拝については、8月下旬を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、関係国の入国規制措置が継続され先の見通しが立たない現状です。

これまで共催してきた栃木県護國神社とも調整して、実施に向けて努力して参りますが、催行はかなり難しい状況にあります。

この件についての問い合わせは、事務局・大久保まで（☎026・286・2810）お願いします。

▼事務局から▲

平素から長野県ニューギニア会の円滑な活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

お陰さまで、当会も多くの会員の皆さまのお力添えで、52年の長い歴史を積み重ねてまいりました。

しかしながら近年では、会員の高齢化と減少に伴い、必要な予算の確保が難しくなってきております。ご英霊の顕彰、当該国との友好親善、会員相互の親睦といった目的達成のために、まだ本年の会費を納入されてない会員の皆さまには、改めて払込用紙をお届けしますので、今後とも絶大なご協力をお願いいたします。

椰子の実

★皆さま、新型コロナ問題でご不自由な毎日をお過ごしのこととお見舞い申し上げます。今号の会報発行に際しましても関係者の接触を最低にして編集し、本田会長から行事の変更と執行についてご報告いたしました。

★『あたまを雲の上に出し…』と歌った富士山と呼ばれた山が世界中に数百あったとは。数々のレポートは日本人が各地で活躍した証拠。噴火の仮説もありますがいつまでも日本一の山でいてほしいです。

★護國神社の鳥居が3基新しく再建とのご報告おめでとうございます。宮司さまからの特別寄稿を頂きました。ご同慶の至りです。

★ニューギニアで新国家誕生の動きのニュース。民族自決とは言うものの住民の血が失われないことを祈ります。

★『こうしろ、あれするな…』と振り回されます。地球上どこでも強いウイルス、しばらくは繰り返すと思われ、早く安全な予防ワクチンと治療薬の完成が待たれます。この会報がお手元に届く頃には少しでも明るい見通しになっていることを切望しています。

（T）